

地域の長をいかした低炭素なまちづくり

低炭素社会とは地球温暖化の原因となる二酸化炭素を

なるべく出さない社会です。

低炭素社会の実現のためには、地域のよいところをみつけて、

活用することが大切です。

このような取組を進めることで、

ほこりの持てる豊かな地域がつけられます。



1 下川町 写真提供：下川町

捨てられる間伐材を燃やし、できた熱をパイプラインで周辺の役場や消防署などの暖房に活用しています(地域熱供給施設)。また、成長が早い「ヤナギ」をエネルギー作物として育て燃料などに利用する取組を行っています。



2 奥州市 写真提供：奥州市

木のチップやてんぷら油などから環境にやさしいバイオマスガスやバイオディーゼル燃料を製造しています。また、この燃料を使いコージェネレーションシステムで熱と電気を作り市内の温泉施設のエネルギー源としています。



3 神奈川県 写真提供：株式会社 SIM-Drive

電気自動車やその充電施設の整備に取り組んでいます。また、大型の電気バス(電動低床フルフラットバス)を企業・大学などと協力して開発し、県内2か所で環境にも人にもやさしい公共交通として実証試験を行います。



4 中津川市 写真提供：中津川市/株式会社三機工業

ゴミ焼却場の排熱を、蓄熱材を積んだタンクローリーにつめ、市内の病院に運び、そこでの暖房や給湯に使用しています(トランスヒートコンテナ)。また、別の病院では地面に深い穴を掘り、年中安定した地中の熱を病院内の空調において活用しています。



5 淡路市 写真提供：淡路市/株式会社 NTT ファシリティーズ

年中、日当たりのよい土地がらをいかし1,000キロワットもの太陽光パネルを敷きつめた、メガワットソーラー発電を建設。市庁舎や下水処理施設、防災センターなどの電源を、ここで作られた電気でもかかっています。



6 栲原町 栲原町風力発電 写真提供：栲原町

山岳地帯にある風力発電所で発電した電気を売り、その利益で家庭用太陽光発電設備の導入や森林の間伐に対する補助をしています。また、森林の整備をきちんと行うとともに、間伐材をペレット燃料にして活用しています。



7 北九州市 写真提供：NPO 法人タウンモービルネットワーク北九州

市内の大手製鉄工場が発生する水素を回収し、近隣の集合住宅や店舗の燃料、水素自動車の燃料として活用しています。また、電気自動車や電気自動車充電施設の整備のほか、どこでも借りて返せる、電動アシスト自転車のレンタル事業を行っています。

東日本大震災をうけた今後の低炭素なまちづくり

平成23年3月11日に東日本大震災が発生しました。多くの方が亡くなられ、家や工場、田畑が破壊されました。原子力発電所の事故も発生し、放射性物質による汚染の問題のほか、電力の供給も不足しました。電力不足を補うため、省エネの努力が各地域で続けられています。また、地域で自立した電力をまかなうため、太陽光や風力など、地域の長をいかした再生可能エネルギーの活用が期待されます。

